

# 社会文教委員会協議会での審査の概要

令和5年6月16日(金) 11:42~12:22

第1委員会室

## ❖ 「保育料・副食費の還付漏れについて」

社会文教委員会協議会において、執行機関側から別紙資料の説明を受けた後に行った委員からの質疑等の概要

【質疑】 原因として、「出欠簿から報告書への転記漏れがあった」とあるが、報告書の形式は。

【答弁】 各園で管理する出席簿から市の報告書への転記が必要であった。市への報告様式は3歳以上児と、3歳未満児の2種類あった。3歳以上児への副食の提供は園ごとに給食提供日数や副食費が異なるため、詳細を報告いただく必要があった。また、3歳未満児の保育料は、月25日で算定しているため、出席日数を把握する必要があり2種類となった。

【質疑】 報告書は、個人ごとでなく、園ごとまとめた報告か。

【答弁】 毎月子育て支援課から通知し、園ごとまとめて報告を受けていた。

【質疑】 この制度（手続き）の説明はどのように行ったか。

【答弁】 毎月開催している園長会（公立・私立・幼保連携型認定こども園）で周知した。

【質疑】 園では承知していたはずだが、報告がある月とない月が、とびとびであったのか。

【答弁】 ひと月だけ漏れていた園もあれば、報告がある月ない月があった園もあった。

【質疑】 園では、なぜ報告ができなかったか。担当者がいるのか、いないのか。担当者が失念したのか。現場は多忙であると聞かすが、状況は。

【答弁】 私立園には、事務員が配置されており事務を担当している。公立園は、事務全般を園長が行っている。再発防止策でも触れているが、各園の実態がどうであったか実態調査を行い、今回の報告漏れが起きた実態の検証を行う。

【質疑】 再発防止策に「ICTの早期導入」などの記載があるが、ICTの導入により、各種報告のチェック等ができるか。

【答弁】 現在の保育ICTシステムは主に園児の登降園の管理ができることにより、そこに関するヒューマンエラーや、欠席等の電話連絡を記入するといった手間がなくなる。システムに登録されたデータを抜き出すことも可能であり、今後同様な報告を求める場合に当該データを活用できることとなる。現在システムを導入中である。

【質疑】 子育て支援課の体制はどうであったか。

【答弁】 保育所等の事務に係長1名、入退所、保育料の算定事務に正規職員3名、会計年度任用職員2名の計5人体制で対応、私立園の運営費算定事務に正規職員1名がいる。

今回の件に関しては、係長1名と正規職員2名の計3名で対応していた。

今後は、スケジュール管理できるソフトのToDoリスト機能を活用し、子育て支援課全職員で情報共有を進める。

【質疑】 子育て支援課では、園からの報告がなかったために、該当なしと判断したか。

【答弁】 委員指摘のとおり。

【質疑】 該当する保護者と保育園との間で、何かやり取りはあったか。

【答弁】 子育て支援課では詳細は把握していない。

【質疑】 昨年度、コロナ禍において不祥事案件が発生し、市では再発防止策を立てたが、その点も含め園に周知をしたか。

【答弁】 不祥事案件については、園長会において説明した。コロナ禍における事務の点検については本来であれば十分にチェックや振り返りを行うべきであったが、その時点では実施できなかった。

【質疑】 園との報告等のやり取りを一覧表などでチェックしていたか。

【答弁】 一覧表でのチェック等はできていなかった。

【質疑】 保育現場は非常に多忙で、人材不足であることから、ヒューマンエラーが起きやすい現状があると思う。今後、調査を進めるとのことだが、現状で把握できている範囲で良いので、44園中8園に共通する課題として、人材不足、マネジメント不足等、見えているものがあるか。

【答弁】 現状で、持ち合わせているものはない。共通する事項があるかは、現場への調査の中で判断したい。現状では、委員指摘のとおりコロナ禍における、多忙や人材不足は共通事項と捉えているが、さらに実態について今後の調査で判断したい。

委員からの質疑等は以上のとおり。

最後に、委員長から

執行機関側からは、できるだけ速やかに還付したいとの意向を聞いている。それに必要な対応があった際には、議会としても今後の対応、方針等の確認をさせていただく。旨の発言を行いました。